

- アンケートⅠ・Ⅱの結果から
Y子は、6つの項目も平均よりも下回り、不適応状態も顕著にします。
- (2) 調査の結果分析から指導計画作成と指導対象生徒の抽出

① 指導援助A

アンケートⅠの結果から次の4つの項目『所属と愛情』・『自己理解』・『自尊』・『将来への向上』の指導が必要と考えられた。

また、アンケートⅡから、学級全体に学校不適応感もあるので、その改善にむけて、グループ・エンカウターのエクササイズ・メニューを下記のように作成した。

【項目】	【エクササイズ・メニュー】
所属と愛情	⇒ 人間関係づくり
自己理解	⇒ 自己発見・自己開示
自尊	⇒ 自分の長所
将来への向上	⇒ 自分の目標と価値

② 指導援助B

アンケートⅠ・Ⅱの結果から、初めから学級集団そのものに不適応をおこして指導援助Aが困難な生徒がいる。

この場合は、教師は問題のある生徒に対してカウンセリングを実施する。

- アンケートⅠ・Ⅱからの抽出生徒 Y子
学習成績は上位であるが、過去には相手のことを考えずに自己主張し、クラスメイトから受け入れられないこともあった。Y子に対しては、個別にカウンセリングを実施し、集団活動への参加を促す。

- (3) 学級集団に対してグループ・エンカウターによる指導援助

☆指導援助A (学級活動・道徳時に実施)
グループ・エンカウターのエクササイズメニュー

○人間づくり	1. パートナー紹介
<所属と愛情>	2. 探偵ごっこ
	3. ブラインド・ウォーク
○自己発見	4. 「私」との対話
<自己理解>	5. インタビュー
	6. 自己投影ゲーム
○自己をみつめる	7. 思い出を語ろう
	∴

以上のように20のメニューにしたがって、ひとつのエクササイズあたり20～30分の時間をかけ学級全体へ実施した。

【実践例】 □□ 自己発見 4. 「私」との対話

ねらい	「私は何者か」をつかませる演習で、学期の初めと終わりに行うことによって、どのように自己概念(自己像)が向上したかを知る。 また、自分以外の人のいろいろな反応を知る。
手順	ア. 下記の表から適当な事項を選び、質問用紙をつくる。 イ. 十分時間をとり、質問用紙に記入させる。 ウ. 時間がある場合は、生徒の了解を得て、回答のうち、項目⑤⑥等を公開して、それが誰かをみんなであてる。 回答用紙を無作為に一枚抜き出し、「質問⑤『自分がどんな人間かを表す三語』の答を読みますので、その人が誰であるかあててください。わかったら手を上げて下さい。」 エ. エクササイズ終了後に話し合いを持つ。
	①名前 ②年齢 ③誕生日 ④住所 ⑤自分がどんな人間であるか一番よく表す言葉 ⑥十年後の自分 ⑦放課後や週末の過ごし方 ⑧暇な時にしていること ⑨尊敬している人 ⑩親友と自分の共通点 ⑪趣味・特技 ⑫好きなテレビ番組 ⑬学校に対する感想 ⑭人生の目標 ⑮好きな言葉
留意点	ア. 学年末に同じものを実施し、自分の考え方の変容に注目させる。 イ. 質問に対するいろいろな反応を自分以外の人とわかちあわせる。 ウ. 質問は、できるだけ抵抗なく回答できる質問にし、徐々に生徒の人間性の深部にせまる質問になるように構成する。